

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①橋本俊詔他著『世襲格差社会』中央公論新社 (iv+211頁, 四六判)</p> <p>「団塊の世代」が仕事から引退し始めているなか、「世襲」が注目を集めている。後継者問題などと絡めて、「親の仕事を継ぐべきか」あるいは「子どもに継がせるべきか」と迷う人が少なくないようだ。本書は、世襲の現状やその経済的意味などを考察。職業の世襲を中心に、事例やデータを駆使して多様な面を分析し、メカニズムを明かす。これによれば、医師や経営者、学者、農業などでは親子が資産、職業を継承していることが多く、人生のスタート時点で有利に立っている。他方、世襲の程度が弱いのはサラリーマン。著者は、親ないし親族から遺産、資産を受け継ぐ人とそうでない人の中には、結果ではなく、機会の格差の問題が発生するのではないかと問題提起する。</p>	<p>③山田久著『失業なき雇用流動化』慶應義塾大学出版会 (x+268頁, 四六判)</p> <p>著者は、過去20年、雇用の流動化をめぐる政策的にも理論的にも様々な議論が行われてきたが、結論が得られたとはいえず、共通認識すら十分に得られていないと指摘する。雇用は国民生活の根幹であり、そのあり方の方向性について立場を超えて多くの人々が認識を共有することは、日本の経済社会を立て直すために不可欠にもかかわらず、十分できていないと強調。こうした問題意識から本書は、産業別・国際比較など多様な面から雇用流動化と経済成長の関係を独自のフレームワークで提示する。どのような条件で雇用流動化が経済活力につながるか、という実践的な問題設定から論じている。本書は約15年継続されてきた著者の労働・雇用研究の集大成と位置づけられている。</p>
<p>②ラース・スヴェンセン著『働くことの哲学』紀伊國屋書店 (262頁, 四六判)</p> <p>「哲学」と聞けば、身構えてしまう人も少なくないだろうが、本書はそんなおきたい専門書ではない。ノルウェーの気鋭の哲学者が自分の就業体験や父親の職業人生からのエピソードを紹介しながら、「仕事」の現代社会における位置づけを平易に分析している。人々が幸福に満たされた生活を求めるなか、「仕事は人生の意味そのものを与えてくれるか」「自己実現の神話を信じすぎること、かえって仕事が災いになってはいないか」「給与の額と幸福感は比例するか」などの論考から「働くこと」の過去、現在、未来を考察する。第1版では想定もしていなかった急激な経済変動が発生したため、一部を大幅に改訂。新たに「仕事とグローバリゼーション」をテーマに1章を加筆。</p>	<p>④今野晴貴著『ブラックバイト』岩波書店 (x+223+3頁, 新書判)</p> <p>労働条件が過酷で、学業に支障が出るほどのアルバイトを「ブラックバイト」という。長時間労働など違法行為を常態化させ、時に働く人の命まで奪う「ブラック企業」の学生版である。現在、単なる学生アルバイトであるのに、過重労働で倒れてしまうほど働かされる事例が急増し、もはや、アルバイトとは「気楽なもの」とは言えなくなってきた。本書では、ブラックバイトの特徴として、①過重な責任②過度な長時間・深夜勤務③急な呼び出し、シフトの強要④最低賃金割れの賃金⑤罰金、ノルマ、自腹購入——などの兆候が表れたら危険だと警告。一方で、家計の悪化や学費の値上げによる奨学金利用の増大などで学生の貧困化が進行、アルバイトに駆り立てる実情も指摘。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2016年5—6月労働図書館受け入れ)

- ⑤太田肇著『個人を幸福にしない日本の組織』新潮社(220頁, 新書判)
- ⑥荒牧草平著『学歴の階層差はなぜ生まれるか』勁草書房(ix+292頁, A5判)
- ⑦金成垣著『福祉国家の日韩比較』明石書店(195頁, A5判)
- ⑧中谷文美他編『仕事の人類学』世界思想社(307頁, A5判)
- ⑨太田英基著『ワーク・モデルズ』いろは出版(373頁, 四六判)
- ⑩水町勇一郎著『労働法』有斐閣(518頁, A5判)
- ⑪小杉俊哉著『熱狂しやがれ』ワニブックス(189頁, 四六判)
- ⑫大崎玄長著『やりたいことを仕事にするなら、派遣社員をやりなさい!』総合法令出版(261頁, 四六判)
- ⑬シヴォーン・マクリン他著『パワーとエンパワメント』クリエイツかもがわ(133頁, 四六判)
- ⑭渋谷和宏著『働き方は生き方』幻冬舎(189頁, 新書判)

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書118,275冊、洋書30,519冊、和洋の製本雑誌25,332冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

